有志57人、宮城へ

17日からボランティア

東日本大震災の被災者を支援しようと、県内の有志が9日、「宮城県を元気にする高知応援隊」を結成した。5月に高知市内で開かれた「東日本大震災支援フォーラム」で宮地貴嗣実行委員長らが呼びかけ、57人が手を挙げた。一行は旅費を自己負担して17日に宮城県入りし、津波の被害が甚大な気仙沼市と南三陸町で炊き出しなどのボランティア活動を予定している。

9日夜に高知市内のホテルで開かれた結団式には約50人が集まった。隊長の宮地さんが「向こうは一人ひとりがまだ大変な状況です。仕事などで行けない方の気持ちも一緒に、明るく、元気でやっていきましょう」とあいさつした。

応援隊は18日に2班に分かれ、被災者が今も暮らす気仙沼高校と南三陸町立志津川中学校で高知県産の野菜や赤牛を煮込んだカレーやスープなど計600食を炊き出す。運動不足を補う出前体育教室もする。18日以降も一部が宮城にとどまり、がれき撤去などのボランティアに参加する。

現地入りチームを率いる磯木保広・南国運送社長は「南海地震が想定される高知にとっては対岸の火事ではない。被災者と交流して我々も学ばせてもらい、今後の被災に生かしたい」と話した。（亀岡龍太）

平成23年6月10日　朝日新聞